

経済観測

世界最大の自動車会社ゼネラル・モーターズ(GM)が連邦破産法を申請、破綻(はたん)した。

私が初めて買った車はアメ車(フォード)だった。ミネソタ大学に助教として就職、迷わずアメ車を買った。大きく、カッコ良いスポーツカー風の車に単純にあこがれていたからだ。大きな機械トリアルもなかったが、3年後、日本車の小型ワ

破綻の遠因

ゴン仕様車に買い替えた。結婚したので生活密着型の車にした。

2度のオイルショックを受け、燃費の悪いアメ車はシェアを失った。日本車のシェア急増に危機感をもった米自動車業界は、ワシントンに働きかけて日本に対し「輸出の自主規制」を強く働きかけ受け入れさせた。輸入制限や関税引き上げはGATT(関税貿易一般協定)に違反するが、輸出側が勝手に輸出を絞るのは違反ではない、という発想だった。私が小型ワゴン車を

東京大教授

伊藤 隆敏

買った時も輸出自主規制は生きていた。日本車は値引き一切なし、希望小売価格にプレミアムがついて売られていた。供給量を政治的に絞れば小売価格が上



昇して、生産者(と販売店)の利益マージンが上がるという理論的可能性が現実には起きていた。日本の自動車メーカーはこの超過利潤を製品開発と米国工場進

出の支度金にした。日本の輸出自主規制で、一息ついたアメリカ自動車メーカーも、90年代初めには再び経営が苦しくなった。90年前半に日米摩擦が再燃、アメリカ政府は日本政府がアメリカ車の輸入数量を保障せよ、と要求。これは、さすがに日本が拒否した。しかし約15年後、ついにクライスラーとGMが破綻した。いざとなれば貿易制限で乗り切ろうという政治的姿勢が、会社の革新力を奪ったのかもしれない。